

会 議 概 要

- | | | |
|---|----------|--|
| 1 | 会議名 | 第2回安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会 |
| 2 | 日 時 | 令和4年7月6日(水) 午前10時から午後0時05分まで |
| 3 | 会 場 | 市役所本庁舎4階 大会議室 |
| 4 | 出席者 | (敬称略) 尾碁ゆみ、平倉勝美、出井博文、丸山文、小松正志、鳥羽健太郎、松尾さく江、北村早希、高野恵理、猿田孝江、塚平一彦、降旗幸子、丸山美枝、森下右里子、丸山雅秋 |
| 5 | 担当課出席者 | 市長、政策部長 渡辺、人権共生課長 財津、横川、大場 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 2人 |

協 議 事 項 等

1 開会 (人権共生課長)

2 市長あいさつ

4月に安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例が施行された。共生社会とは、あらゆる分野ですべての人の人権が尊重され、すべての分野で能力等を発揮できる社会。実現のためには、様々な人の多様な生き方を認め合うことが必要となる。

誰一人取り残さないというのは、たやすいことではない。相手を尊重し、誰かのために手をさしのべることは非常に大切なことであり、市において多くの市民が実現することができるかというのが、条例が本当に意味のあるものになるかを左右する。

今までの経験、高い見識から様々なご提言いただき、計画を作りたい。

3 自己紹介

4 会長・副会長の選出

・会長 : 元安曇野市男女共同参画推進審議会会長 尾碁 ゆみ 様

・副会長 : 安曇野市区長会 小松 正志 様

(会長あいさつ)

私はこれまで、男女共同参画推進にかかわってきたが、社会が大きな変化に対応するためには、男女という考えに加え、「誰もが」輝く社会が大切。実現には、市の皆さんの理解と協力が必要になる。今回の計画は条例改正後初の策定になる。多様な視点や新たな発想、専門的な知見を得て、先見性を持った共生社会づくり安曇野モデルができればと考えている。安曇野市の将来に役立つものにしたいので、委員の皆様にはよろしく願いたい。

(副会長あいさつ)

区長会からの選出で出席している。一年間、勉強させていただきたい。

5 諮問

(諮問の内容は別紙のとおり)

6 協議事項 【発言者 ◎会長 / ・委員 / ⇒人権共生課】

(1) 審議会委員の任務等について

資料に沿い、審議会委員の説明（人権共生課）

【質疑応答】

・資料3、ダイバーシティ、インクルージョンとある。究極的にはインクルージョンが良いと思うが、まだ各属性に合わせたサポートができていない段階。差し当たってはインテグレーションの手法をどうしていけばよいかを議論すべき。インクルージョンというところまで念頭において議論を進めていくかどうか疑問に感じた。

また条例の男女共同参画という用語の定義について、特に女性の参画についての色彩が強いと思うが、ここでは「すべての」となっている。これで間違っていないか。

⇒条文は議会で議決いただいている。

・今回の計画策定にあたって、この定義でこの用語を使うのか。

⇒基本理念の規定により「全ての人」統一されている。計画も条例に沿ってつくる。

・進化の途中なので、内容面など今後見直していけば良いと思う。

・県などでも「男女共同参画」という言葉だけが多用されており、「共生社会」という状態にはなっていない。齟齬が生じていると思う。ほとんどの方が男女共同参画で理解されていて、「すべての人」を取り残さないという趣旨はよいが、大きすぎるため、ついていけない方も多。今後、皆さんに、どのように認知してもらうのかを併せて考える必要がある。

・県でも国でも男女共同参画という言葉を使っているが、安曇野市だけ抜けてしまうと市民はどのように解釈するか不安がある。現在、「男女共同参画」も「共生社会」も同じ意味で同じように使っていると思うが、それがなかなか理解されないのではないかと思う。

・大きく括ると共生社会かもしれないが、男女共同参画が実現しないまま、現在に至っている。男女共同参画社会づくりの上に共生社会があるという考えを持たなければ、「男女共同参画」がなくなってしまう。

・大枠では（男女共同参画から共生社会へ）そういうことであると思うが、男女というものが変化してきている。男性・女性と二分されるものではなく、性はグラデーションになってきており、そのようなあり方が普通になってきている。男女共同参画は達成できていないが、外国籍の方や障がいのある方の参画が、男女の問題より置き去りになっている。同じ土俵にのせて、議論すべきであると考えている。

・ジェンダーの上での平等が到達できていないと感じているが、男女共同参画という言葉自体に違和感を覚えている。ジェンダーと考えるとあてはまらない、グラデーションの部分があるので、「男女共同参画」と言われると違和感を覚える人も多いのではないか。「男女」「多文化共生」「障がいの有無」等区別し、分けていることに違和感がある。私は多様性、ダイバーシティといった大きな括りの方がしっくりくる。

・今まで男女共同参画の中にそうした多文化共生等の個々の問題があり、活動してきたが、すべて「男女共同参画」という言葉で言い表してきた。その言葉が消えてしまってきている。みんなが理解できていないうちに、また違う言葉で表現された。国や県、世界ではまだ「男女共同参画」という言葉が出てくるが、その内容（共生社会や男女共同参画の言葉）が誰にでも理解できる状態に持っていければそれでいいと考える。

・年代ギャップがあると思う。ジェンダーレスという言葉でも全く理解できない世代と、自

分では心に落ちてないが頭では理解できる世代、それが当たり前で身近にいる世代。ギャップを埋めていくうまい説明ができれば、上手くいくのではないか。

◎詳細についてはこれからという部分もあるかと思う。

(2) 第3次安曇野市男女共同参画計画について

第3次安曇野市男女共同参画計画及び資料に沿い、第3次安曇野市男女共同参画の説明（人権共生課）

【質疑応答】

- ・目標に対する結果のいろいろな数値の根拠、手法についてはどのようなものか。
- ⇒項目によっても異なるが、アンケートを実施し、その結果から出すものもある。

(3) 策定方針について

資料に沿い、策定方針について説明（人権共生課）

【質疑応答】

- ・パワハラセクハラ等の問題が市の中でも出ているが、施策の体系で男女共同参画の暴力の根絶に入ってくるのか？市民はもちろん、職員、議会などあらゆる面で考えて対策を立てていかなければならないこと。

⇒施策の体系のとおり、男女共同参画の暴力の根絶に入る。市役所だけでなく、市全体として様々なDV、ハラスメントについて考え、施策に盛り込む。

- ・DVは、なぜ男女のところに入ってくるのか。女性の男性に対する暴力が全く顕在化しないことが問題となっており、顕在化した段階ではすでにひどい状況になっている。男女の問題という事でもなく、労働の現場、子供たちや外国人の問題でもあること。

項目立てについて、多様性というと多文化であるとか男女の問題などはあるようだが、障がい者や子ども、高齢者について言及していない。

⇒DVについては、外国人に対してもあつたりするので、再考したい。子ども、高齢者については、福祉や子どもに関しては、ほかの個別計画とのすみ分けは図っていききたい。そのあたりはわかるように、どの個別計画でというところは示していきたい。他の自治体の例では、施策が重複する場合がある。施策としては、どちらに入れるのか、あるいは重複がわかるように示すのか、検討したい。

- ・行政内部ではそうした（すみ分けの）問題があると思うが、条例は何人も差別してはならないとなっている。行政は、これに違反する一切の行為は許されなくなる。この計画案ではそうした視野を持ち、行政の各部門をチェックする必要がある。必ずこちらの視点がオーバーライドする。重複した場合には、こちらを優先してもらいたい。

- ・条例の前文では「全ての」となっている。この計画の中にも年齢に関わらずということであれば、外国人児童・生徒だけではなくそれ以外の日本人児童・生徒の関係、特に家庭と先生とのやり取りなどいろいろな環境なども手当ていただきたい。

- ・前回の計画と見比べると、目指す社会像は「心通い合う男女共同参画社会 安曇野」から「誰もが輝ける共生社会 安曇野」となっており、すっきりしている。この“共生社会”が大切。基盤には男女共同参画という長年の経過があつて、この共生社会に持ってこれたと感じた。変化しているが、変化ではなくこれまでの積み上げの上に立って、共生社会を目指していくとい

うことが分かった。

・「男女共同参画」＝男性と女性というイメージが強く、この計画の方針である「多様な」というところを進めていくべき。多様な性への理解への促進とあり、それも必要だが、多文化共生のところには、「偏見差別の解消」とある。多様な性については理解も進んでは来ているが、偏見や差別はまだあるのでそうした視点もここに入れる必要がある。固定的な性別役割分担意識の解消について、男女共同参画の普及啓発等と書いてあるが、具体的な対策ではないのか。具体的にどういうものを目指している等の内容があるといいと感じた。

・子どものことを考えると、ヤングケアラーやネグレクトなどの問題が、他のところに示されてあればいいが、共通している部分と独立して示さなければいけない部分がどこなのかまだはっきり分からない部分がある。

・意見を出しているうちにだんだんがんじがらめになり、視野が狭くなる。新しいことを決めるので、ある程度のゆとりをもって、ゆりみがある施策をしてもらいたい。一人ひとり、みんなが理解することが一番大切。

・委員の皆様のご意見が多様性だと理解している。考え方は違うが、それぞれの正しさをどう理解してどう共有し、どうかたちにしていくのか大変。スピード感も大事だが、基本理念を共有する時間、資料を読み込む時間があったら、お互いに言葉や想いを伝えあうことができ、良いものができるのではないかな。

・計画の施策から男女共同参画がなくなるわけではなく、共生社会がこれから大切で、ユニバーサルデザインで安曇野市に住みたいという人が増えるという考えで計画が進められていることが分かった。委員の中も年齢、環境、職業、いろんな生き方、意見があるので、お互いに理解しつつ、いいものをつくっていったら。

・ユニバーサルデザイン推進計画、男女共同参画計画、多文化共生計画、それぞれ深い課題があるので、ひとつずつしっかり詰めた上で共生社会づくりに持っていくほうが良かったかと思うが、共生社会づくり審議会ということですべてまとめてやるということなので、勉強しながら参加させていただく。

・全体で進めていくには良いと思う。行政なのでどうしても縦割りになるので、共有していく部分と他の課で独立してやるが関連する部分とを一緒に進めていくようにしていただくとよいと思う。

・広範囲の会議で戸惑っている。国・県・市の関連性がどうなっているのか。総合的になり、制度上の齟齬が出てくるのではないかな。私個人的な意見では、日本は遅れていると思う。

・いろいろな意見があるが、目指すところは共生社会づくりということで審議を進めていきたい。

・資料が読み切れていない状態で、本日出席した。読み切れないまま進んでいくのは怖いので、もう少し早く資料の送付をお願いしたい。

・部局での重複の件については、この条例に基づいて各部局で差別的な取り扱いがないか総チェックする必要がある。そうしないと絵に描いた餅になる。

(4) その他

(事務局) 県多文化共生相談センター出張相談会 in 安曇野、親子で参加!!世界を知ろう、触れ合おう!ベトナム編、「日本語 de スピーチ大会」&「対話会」、安曇野市共生社

会づくりフォーラム安曇野市共生社会づくり広報紙タイトル募集の案内。

7 閉会

(以 上)